

第74回関東地区学校農業クラブ連盟大会 令和5年度東京大会（後援事業報告）



全国で農業を学ぶ高校生は、農業クラブ員として「指導性」「社会性」「科学性」を重視した各専門分野の学習をしています。各学校では、日々の学習活動の成果を発表する場として校内の発表会を設け、各専門分野で代表生徒を選出します。この代表生徒による発表が東京都大会、関東地区大会、全国大会へとつながっています。

本年度の関東地区大会は、開催地を東京として東京農業大学世田谷キャンパス、都立園芸高校を会場として開催されました。写真は、農業大学の百周年記念講堂で行われた大会式典の様子を紹介したものです。

大会式典は、関東地区学校農業クラブ連盟大会会長の都立園芸高校3年小島さんをはじめとして、司会は都立園芸高校生徒、ファンファーレは都立瑞穂農芸高校吹奏楽部が行う等、生徒が大きく関わっていました。

東京都代表生徒の発表は全国大会へと進むことはできませんでしたが、今感じている課題やその課題解決に向け、プロジェクト学習の成果を活かした主体的な発表をしていました。

発表分野と東京都代表の発表題目とその要旨は以下の表の通りです。

1 プロジェクト発表会

分野Ⅰ類 「生産・流通・経営」	都立園芸高校定時制 園芸科	地域の子ども食堂 ～JGAP認証キュウリ流通プロジェクト～
要旨 本校定時制農場がJGAP認証を取得したことを機に、安心・安全な農産物を、地域の子ども食堂に届けるために生産だけでなく、流通まで自分たちで行いたいと考えた。また、関係機関と連携し使っていただくための配布活動を行った。		
分類Ⅱ類 「開発・保全・創造」	都立瑞穂農芸高校 園芸科学科	A I を用いたストックの八重鑑別 ～東京の農家が使えるアプリの開発を目指して～
要旨 東京都内では、多品目を栽培する農家が多く、ストックのみに手間をかけられないため、A I を使った八重鑑別アプリの開発に取り組んだ。ストックの開花を早めることによって、効率よく、多くのデータを収集する方法の確立ができた。		

分類Ⅲ類 「ヒューマンサービス」	都立園芸高校 園芸科	学び発信で日本の農業を応援！
要旨 日本の農業が抱える問題の改善に向け、東京都の大消費地であるとの性質を活かした積極的な発信・販売活動を行い、消費者の意識向上や農業教育の推進、そして国内農業の支援を目指します。		

2 意見発表会

分野Ⅰ類 「生産・流通・経営」	都立農芸高校 食品科学科	もったいないで起業する
要旨 高校生起業スタートダッシュというプログラムに応募し、規格外作物を利用する会社を起業するための取り組みを行っています。この考えに至った経緯や農業生産上の「もったいない」の現状、今後の展開を発表します。		
分類Ⅱ類 「開発・保全・創造」	都立瑞穂農芸高校 畜産科学科	減らすをプラスに ～ムクドリと人間の共生に向けて～
要旨 ムクドリに着目し、持続的で効果があり生態系を守りながらできる対策はないのか考えた。そこで去勢を提案する。去勢を行い適切な数に保ち、被害の減少と保全が期待できる。私は人間とムクドリの共生が最も重要だと考える。		
分類Ⅲ類 「ヒューマンサービス」	都立園芸高校 動物科	あの頃の私に誇れる私 ー動物飼育を通してー
要旨 小学校の経験を通して学校飼育動物の在り方について考えた。この問題を解決するためには子供達が自分事として向き合う必要がある。そこで、農業高校生が取り組み始めた飼育環境改善プロジェクトについて発表します。		

3 農業情報処理競技会 都立農芸高校食品科学科、都立園芸高校園芸科の生徒が参加しました。

大会日程は8月24日(木)・25日(金)の2日間、初日の24日にはリハーサル等が行われ、25日は各発表会や競技会が順に実施され、最後のイベントとして午後2時30分から大会式典が行われました。右の写真は表彰の場面です。

この東京大会は本会の後援事業の一つ、本会からは金子副会長が式典に出席しました。

大会運営の裏方として働いた都立農業系高校生徒もこの経験を生かして、各々が感じている農業課題への新たな視点の発見ができたのではないかと感じました。

都立農業系高校は、この農業クラブ連盟の活動を通して、校内、都内他校、関東地区、そして全国の学校との交流を重ねて課題解決の学習を深めています。

